

産山村農業・最適化推進運動 農地集積

農委会名：産山村農業委員会

1 地域の概要

本村は中山間地域であり、中小規模農地が点在し、土地改良などが行われておらず、利便性の高い農地において、水稻、施設園芸、畜産の複合的な営農が行われている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数8人（うち、認定5人、女性3人）
- (2) 推進委員数5人（うち、認定2人、女性0人）
- (3) 事務局体制2人（兼任2人）

3 掲げた目標

担い手への農地集積面積 100ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

上山鹿集落、中山鹿集落、家壁集落で構成される^{べざいてん}弁財天地区は、産山村のほぼ中央に位置し、一級河川「山鹿川」沿いに点在する水田での稲作とハウレンソウや花きを中心とした施設園芸を組み合わせた複合経営が営まれている。

当地区の水田は、狭小で傾斜地が多く、圃場整備が行われていない条件不利地であるうえ、後継者や担い手が少なく、高齢化が急速に進行している状況であることから、このままでは、耕作放棄地の増大や有害鳥獣による農作物被害の拡大が危惧されるとともに、地区内農家の営農意欲の衰退や美しい農村景観の保全が困難となる状況である。

そこで、当地区は、様々な課題の解決に向け、地域での話し合い活動を実施し、当地区の持続的な農業のあり方や将来の方向性など議論してきた。



【議論の様子】

5 取組みの成果

地区内農業者の効果的・効率的な農業を実践することで、地域の農業と農地を守り、持続可能な営農体制の確立を目的とした農事組合法人^{べざいてん}弁財天を設立しました。

令和5年10月 農事組合法人^{べざいてん}弁財天設立（組合員22名）

法人への集積面積27.4ha



【農事組合法人^{べざいてん}弁財天設立】

6 課題と今後の方針等

地域の担い手へ農地集積を行っていくにあたり、担い手の作業効率及び省力化を図る必要があるため、圃場・農道の簡易整備や高性能機械、省力化機械の導入等を行う。

農地利用状況調査及び意向調査を継続的に行い、農地中間管理機構と連携し、農地の保全を行う。

また、高齢化により、管理出来なくなる農地が増加していくことから、農地としての維持が難しい場所については、粗放的利用を含めた土地利用を検討していく。